

第七十一回句会 俳句

【高点句】

- ☆ほどけつつ流れに入りぬ花筏 〈眞澄〉
☆みちのくへ続く春天黙禱す 〈安津子〉
☆花吹雪駅に停まらぬ縄電車 〈郁代〉
☆飛花落花浴びてベンチの握り飯 〈一馬〉
☆思い出になる人あまた花の頃 〈莫院〉
☆ホの一つ多き初音の二度三度 〈明美〉

【各自一句】

- ・口元の見えぬ会話や月朧 〈眞澄〉
・卒業を伝える孫の声変り 〈伸子〉
・新しき我を見つけん茎立ちぬ 〈青蛙〉
・初桜二段ベッドの届く朝 〈郁代〉
・春の日や孫の動画に微睡みぬ 〈哲雄〉
・そこかしこ夕餉の香り朧月 〈徳人〉
・天に逝く愚直な漢（おとこ）花吹雪 〈隆司〉
・松葉杖幹に預けて落花浴び 〈明美〉
・青柳や校歌にも我が心にも 〈一馬〉
・食堂の壁に「黙食」春の雨 〈莫院〉
・友と見しこの枝にまた桜咲く 〈安津子〉
・噂や母によく似た片えくぼ 〈美保〉
・再会の友見送りて花は葉に 〈撫子〉
・春の昼古希の手習いヴィヴァルディ 〈緑〉

*以上、43句（3句ずつ14名、1句が1名）より、選句は15名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第1位が同点で2句、第3位が同点で4句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載／1名は掲載辞退）